

# フィリピンをもっと知ろう⑥ (連載)

## フィリピンと日本 こぼれ話

### アジアのノーベル賞と言われる フィリピンの「ラモン・マグサイサイ賞」と日本人

皆さま、アジアのノーベル賞といわれる「ラモン・マグサイサイ賞」をご存知でしょうか。この賞は、フィリピン共和国の第3代大統領の故ラモン・マグサイサイ大統領の功績を記念して1958年（昭和33年）に設立された賞で、公共の福祉のためにアジアの発展に寄与した個人または団体に贈られる賞です。

この賞では、証書とマグサイサイ大統領の肖像と受賞理由が刻まれたメダルと賞金5万米ドル（日本円で約550万円）が贈呈されます。授与式は毎年マグサイサイ大統領の誕生日である8月31日にマニラの式典場で開催されます。

これまでの日本人受賞者を紹介することとしましょう。日本人の受賞者は、映画監督の黒澤明氏（1965年）、政治家の市川房枝氏（1974年）、「ネパールの赤ひげ」と慕われた元神戸大学医学部教授の岩村昇氏（1993年）、大分県知事の平松守彦氏（1995年）、国連難民高等弁務官の緒方貞子氏（1997年）、日本画家の平山郁夫氏（2001年）、NGO「ペシャワール会」現地代表としてアフガニスタンなどで医療活動に従事した医師中村哲氏（2003年）、ゴビ砂漠緑化活動に取り組んできた鳥取大学名誉教授の遠山正瑛氏（2003年）など20人余りとなっています。

日本人が最初に「マグサイサイ賞」を受賞したのは昭和39年。当時の岡山県知事の三木行治氏でした。三木氏は岡山医学校（現在の岡山大学医学部）を卒業し、医師として仕事をした後、厚生省（現・厚生労働省）に入省。

その後1951年（昭和26年）に岡山県知事となりました。岡山県を農業県から工業県にと変貌させ、対がん協会の設立、児童会館の建設などの福祉政策や桃太郎合唱団の結成などの多くの業績を残しました。これらの功績が日本人初の「マグサイサイ賞」（行政奉仕部門）の受賞につながったのです。

フィリピン共和国の第3代大統領のラモン・マグサイサイ大統領は、ルソン島中部イバ市に1907年に生まれ、第二次大戦中は抗日ゲリラとして日本軍と戦いました。戦後は下院国防委員長、国防長官を歴任し、1954年から1957年まで第3代大統領を務め、土地改革を進め、対外的には親米政策をとりました。大統領は1957年、任期半ばに飛行機事故で亡くなりましたが、フィリピン史上最も国民に愛された大統領といわれています。1人息子であるマグサイサイ・ジュニアも国民からの支持は高く、2001年には与党ピープルパワー連合から出馬し、上院議員に再選され、農業委員会、国防委員会委員長などを務めています。

この「マグサイサイ賞」を受賞した日本人の活動と業績をみると、アジアのために真剣に取り組んでいる姿には本当に敬意を表したいです。

フィリピンの生んだ偉大な大統領の賞が、日本とフィリピンの友好と、アジアに貢献する人にスポットを当てている功績は極めて大きいと言えるでしょう。

